全農 JA全農いばらき

営農 News

令和 7 年 10 月 23 日 Newsletter 第 3284 号

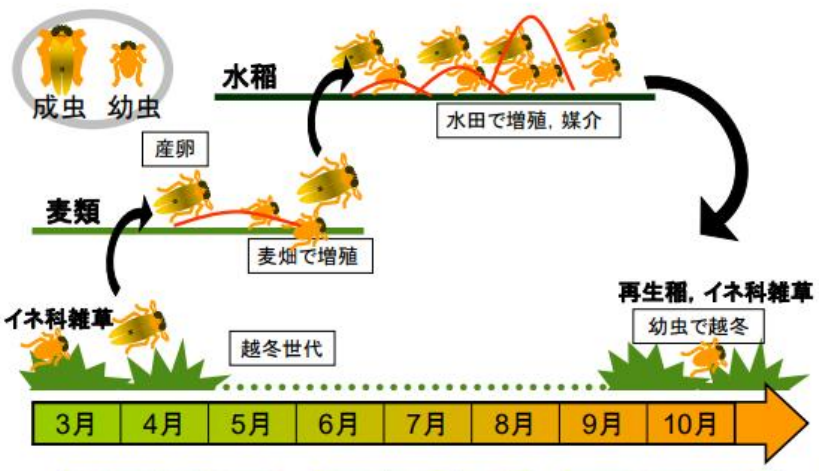
イネ縞葉枯病対策：

ヒメトビウンカの越冬量を減らしましょう！

令和８年産のイネ縞葉枯病の発生を少なくするためには、ウイルスを保毒したヒメトビウンカの越冬量を減らすことが重要です。

水田内の稲株や畦畔、土手等のイネ科雑草は、ヒメトビウンカの越冬場所となります。水稲収穫後にまだ耕起していない水田がある場合には、**速やかにすき込みを行い、畦畔、土手等の除草**を行って、ヒメトビウンカの越冬量を減らしましょう。

媒介虫ヒメトビウンカの生態とイネ縞葉枯病の関係



ウイルスを媒介するヒメトビウンカ

幼虫がイネ科雑草で越冬

↓

4月上旬頃，成虫になって麦畑に飛来，産卵

↓

麦畑で次世代の幼虫が増殖

↓

6月上中旬頃，成虫になって水田に飛来

↓

イネを吸汁，ウイルスを媒介

［ウイルス媒介のしくみ］

- ○ウイルスを持った虫（保毒虫）がイネを吸汁するとイネがウイルスに感染し，発病する
- ○ウイルスを持たない虫が発病株を吸汁するとウイルスを獲得して保毒虫になる
- ○ウイルスは親から子へ引き継がれ，保毒虫から生まれた子の約9割は保毒虫になる

茨城県農業総合センター農業研究所　イネ縞葉枯病防除マニュアル（茨城県版）より
（https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/documents/r3_shimahagare_manual.pdf）

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。
- 営農 News はＪＡ全農いばらきホームページでもご覧になれます。

農機営農支援部　営農支援課　　電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040